

# 冬の図書館行事

- ※申込方法の明示がないものは、当日、直接会場へ。
- ※中央図書館は第2月曜・月末日休館、そのほかの図書館は第3月曜
- ・月末日休館(ただしいづれも11月30日(日)は開館し12月1日(月)休館)。
- ※水川図書館は来年3月2日(月)まで休館
- ※小茂根図書館は12月15日(月)～20日(土)休館
- ※西台図書館は12月1日(月)～20日(土)休館
- ※志村図書館は12月15日(月)まで休館



行 事	と き	内 容	対 象	定 員	と こ ろ・申込・問
ミニ・ボローニャ・ブックフェア	12月5日(金)～13日(土)	外国語絵本の展示	—	—	赤塚図書館☎3939-5281
えいごでおはなし会	12月6日(土)14時～14時40分	英語の歌や手遊び・絵本の読み聞かせ	小学生以下 (保護者同伴可)	15人(申込順)	11月22日(土)朝9時から、直接または電話で、赤塚図書館☎3939-5281
図書館医療公開講座	12月6日(土)14時～16時	イムス記念病院医師・ときわ台村中眼科医師による合同医療公開講座	—	60人(申込順)	11月15日(土)から、電子申請(区立図書館ホームページ参照)で、中央図書館☎6281-0291
クリスマスおはなし会	12月7日(日)10時30分から	クリスマス絵本や紙芝居の読み聞かせ、手遊び	小学生以下のお子さんと その保護者	15組(申込順)	11月22日(土)朝9時から、直接または電話で、東板橋図書館☎3579-2666
折り紙講座	12月7日(日)14時～15時30分	折り紙でお正月の飾り作り	18歳以上の方	16人(申込順)	直接または電話で、蓮根図書館☎3965-7351
オリジナル御朱印帳をつくろう		選んだ絵柄で御朱印帳作り ※費用：1冊1000円	中学生以上	10人(申込順)	11月22日(土)10時から、直接または電話で、成増図書館☎3977-6078
子どもによりそう子育て	12月11日(休)10時～11時30分	発達が気になる子どもとのかかわりセミナー	18歳以上の方	30人(申込順)	11月19日(休)朝9時から、直接または電話で、蓮根図書館☎3965-7351
マイ・フェイバリット・フレーズ オブ・ブック	12月13日(土)14時から	翻訳家・三辺律子による翻訳講座	中学生以上	20人(申込順)	11月22日(土)朝9時から、直接または電話で、東板橋図書館☎3579-2666
板橋と新選組	12月14日(日)14時から	新選組研究家・伊東成郎による近藤勇・新選組隊士と板橋の講義		30人(申込順)	11月16日(日)朝9時から、直接または電話で、小茂根図書館☎3554-8801
クリスマスおはなし会	12月17日(休)15時30分～16時15分	大型絵本や紙芝居の読み聞かせ、工作など	小学生以下のお子さんと その保護者	15組(先着順)	中央図書館☎6281-0291
しみずでかけえ	12月21日(日)14時～15時	影絵グループ「あけびの会」による影絵劇	中学生以下(小学3年生以下は保護者同伴)	70人(申込順)	11月21日(金)朝9時から、直接または電話で、清水図書館☎3965-9701 ※ところ：清水地域センター
クリスマスコンサート		子育て応援バンド「音ごはん」によるクリスマスコンサート	3歳～小学生 (未就学児は保護者同伴)	30組(申込順)	11月30日(日)朝9時から、直接または電話で、東板橋図書館☎3579-2666
クリスマスおはなし会	12月21日(日)14時30分～15時15分	大型絵本の読み聞かせ、工作など	小学生以下のお子さんと その保護者	—	西台図書館☎5399-1191

▼評 天賞、黄昏も單なる日暮れではなく人生の  
黄昏。精神的静寂の中の微かなリビドー。地賞、  
捉え処なく変化するババは扱いにくい。平和への  
切り札になつてくれればいいのだが。人賞、人生  
の余白には、半生の内省が映る。入選句のように  
川柳らしく人間を直接描いた作品もあるが、風景  
描写ばかりで人が見えにくい句も多い。川柳は人  
を描く文芸。

▼申込・問 12月1日(必着)まで、はがきに部門  
(短歌・俳句・川柳の別)、作品(1人各部門1作  
品で未発表のもの)と必要事項(申込記入例8面参  
照)を明記のうえ、(公財)板橋区文化・国際交流  
財団(〒173-10014大山東町51-1) ☎ 3357  
9-13130※文字は楷書で丁寧に。漢字には  
ふりがなも明記。※入選作品の他誌への投稿はご  
遠慮ください。

▼人	いくつもの余白があつて迎う喜寿	坂井傑	伊藤恭一郎
▼地	トランプの Baba 抜きのごと世界地図	大泉玲子	鈴木昇
▼天	黄昏の静けさ少し恋少し		
▼地	川柳	鈴木ミツ子	
▼天	噴水の踊る十指や風の街		
▼地	野仏や雛に括りし帰り花		
▼天	柿熟れて終日鳥の声しきり		
▼地	天賞、噴水が風に吹かれ躍る指のよう。		
▼天	「踊る十指」の比喩がうまい。地賞、春に咲く草木		
▼地	の花が冬に咲くのが帰り花。主に桜、躊躇。野仏		
▼天	に雑に供えられている。面白い光景。人賞、熟柿		
▼地	を食べに鳥が集まり賑わか。日本の秋の良き叙景。		
▼天	尾藤川柳 選		

歌壇  
**宇田川寛之選**

▼天 散々に苦労した子に手を引かれ現在（いま）  
は一番ひまわりの花 浅賀清

▼地 呆け初むる兄の話をひたすらに背を伸ばして聞きついでをり 朝田明己

▼人 減税も給付も決まらずスーパーのレシート 宮野恵基

眺め溜息の増す

▼評 天賞、苦労をかけられていた子に、今では苦労をかけ手を引かれる。それが幸せ。ひまわりが喜びを増幅させる。地賞、少しずつ変わってゆく兄、戸惑いつつも作者は向かいで背筋を伸ばして聞き入るしかない。人賞、率直に世相を描き取る。まさに実感が籠つた一首。

いたばし区民文芸  
9月・10月分